

参考

キャストィ21地区計画

キャストィ21地区では、21世紀の都心にふさわしい、にぎわいとうるおいにあふれた交流空間の形成を図ることを目指し、平成19年1月に「キャストィ21地区計画」を決定しています。

※ ただし、キャストィ21のメインエリア(エントランスゾーン、コアゾーン及びイベントゾーン)は、地区計画の方針のみを決定しています。

名称	キャストィ21地区計画
対象面積	約25.4ha
地区計画の目標	<p>本地区（メインエリア・サブエリア）は、姫路駅周辺でJR山陽本線等連続立体交差事業等により新たに発生する広大な用地を活用し、「広域圏の中核都市にふさわしい、にぎわいとうるおいにあふれた交流都心」の形成を目指す新しいまちづくりを計画するキャストィ21区域の一部である。</p> <p>本地区内では、広域圏の中核都市姫路の未来性をあらわすシンボルとして、市民や圏民の生活文化・交流の拠点として、さらに、国際観光都市・西播磨テクノポリスの母都市の玄関としての役割を持ち、国際化・情報化に対応したまちづくりが期待されている。</p> <p>このため、21世紀の都心にふさわしい、にぎわいとうるおいにあふれた交流空間の形成を図ることを地区計画の目標とする。</p>



今後、事業コンペの結果を踏まえ、将来にわたり良好な都市環境を維持するため、メインエリアにおいても地区整備計画を決定していくこととしています。

名称		キャストィ21地区計画
土地利用の方針	(メインエリア) 姫路市の将来を担い、播磨の中核都市の都心にふさわしい、交流機能、教育・文化機能、観光機能、商業・業務機能、医療・福祉・居住機能、交通結節点機能等、高次都心機能の導入を図るものとする。 (1)エントランスゾーン 播磨の中核都市である姫路の新しい顔にふさわしい緑とうるおいのある景観形成と、ときめきとやすらぎを感じることができる空間配置を図るものとする。 (2)コアゾーン 都市基盤整備により新たな街区を形成し、歩行者ネットワーク等により各ゾーン相互の連携を図るものとする。 (3)イベントゾーン 「交流と創造のうるおいひろば」と位置づけ、都心部に残された最後の大規模空間として、幅広く有効に活用を図るものとする。	
地区施設の整備方針	土地区画整理事業、鉄道高架事業及び関連道路事業により整備された道路、公園等の機能をより一層増進するよう整備を図る。	
建築物等の整備の方針	(メインエリア) 大規模な街区を活かした憩いとうるおいのある空間として、水辺や緑豊かな環境を積極的に形成し、主たる歩行者空間レベルを対象に開放性豊かな空間を確保するため、建築物等について必要な制限を設ける。	

